

【みえの遺跡紹介】松阪市 大原堀遺跡

大原堀（おおはらぼり）遺跡は、三重県中部の松阪市広瀬町にある遺跡です。この遺跡では縄文時代晩期（約2,500年前）の墓が28基見つかりました。墓には、縄文土器の深鉢を棺にした「土器棺墓（どきかんぼ）」と、穴を掘って人を埋葬した「土壙墓（どこうぼ）」がありました。

土器棺墓は14基見つかり、そのうち3基は、2または3個体の深鉢を組み合わせたものでした。この土器棺墓には地域性が見られ、伊勢湾東岸地域（愛知県）では、この土器棺墓は基本的に3歳児以下の乳幼児を対象とした墓とされています。一方、近畿地方では、一度土壙墓で埋葬した成人を掘り起こして再び土器棺で埋葬することもあります。この遺跡では土壙墓が掘り起こされた形跡が認められなかったため、伊勢湾東岸地域と類似するものと考えられます。

また、墓が集中しているエリアを囲むように4基の立石（りっせき）が確認されています。これが一種の「地上標識」と捉えると、墓地の範囲を示すものではないかと考えられます。

縄文時代の集団墓地ともいえるこの遺跡での調査は、伊勢湾西岸地域の三重県における当時の墓制を知る上で、たいへん貴重な資料となっています。

大原堀遺跡の発掘調査報告書は、こちらでご覧いただけます。

<https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/maibun/da-tosyo/maibunDetail?mngnum=812526>

（活用支援課）



ほぼ完存していた土器棺墓



出土縄文土器



人為的に設置された配石・立石
(立石は墓域を示しているものと思われます。)



大原堀遺跡全景